

VII. 平成31年度沖縄県立那覇西高等学校推薦入試選抜基準

1. 普通科 次の1.～4.の4項目を点数化して、その総得点を合否判定の基準とする。

1. 内申点：中学1年、中学2年、中学3年の9科目の5段階評定の合計

2. 自己表現または個性表現の実績の基準目安

(ア)～(エ)の項目について、以下の基準で点数化する。受験生が申請した推薦項目についてのみ、最も高い実績を1つだけ採用する。

【自己表現の分野】

分野 ランク	(ア)文化活動に関する実績	(イ)スポーツ活動に関する実績 (中体連、又は競技団体が主催する大会に限る)	(ウ)社会活動、ボランティア活動 における表彰	(エ)資格取得等の活動
A	全国大会での最優秀賞、優秀賞及び金賞	全国大会に出場した場合	全国レベルで活動が認められ表彰を受けた、または実績が証明できる	英検・漢検・数検2級以上
B	全国・九州大会入賞、県大会最優秀賞またはそれに準ずる賞	九州大会に出場した場合、競技団体が指定する強化選手	九州レベルで活動が認められ表彰を受けた、または実績が証明できる	英検・漢検・数検準2級
C	県大会優良賞以上またはそれに準ずる賞	県大会ベスト4以上に値する場合	県レベルで活動が認められ表彰を受けた、または実績が証明できる	英検・漢検・数検3級
D	県大会佳作・入選、地区金賞またはそれに準ずる賞	地区大会準優勝以上に値する場合	地区で活動が認められ表彰を受けた、または実績が証明できる	英検・漢検・数検4級、硬筆・毛筆検定(3級以上)、書道(有段者)、珠算(3級以上)、剣道・空手(1級以上)、柔道(3級以上)に準ずる資格
E	上記AからD以外の実績	上記AからD以外の実績	AからD以外の実績	上記AからD以外の資格

【個性表現の分野】

分野	(ア)音楽、美術、書道などの芸術分野	(イ)文芸、研究などの分野	(ウ)舞踊、創作ダンス、手話等の身体的活動を伴う分野	(エ)留学などの体験分野
基準・得点	1分野のみを、自己表現のランクに準じて評価するが、基本は自己表現のランクC以下とし面接内容を含めて審議する。			

3. 特別活動(調査書表記されている事)の基準目安

項目	ランク
(1) 生徒会 ※但し、加点は3ヶ年で1回とする	A
(イ) 会長	B
(イ) 副会長・書記・会計	C
(2) 学級正副級長 ※但し、加点は3ヶ年で1回とする。	C
(3) 部活動部長(キャプテン)経験者 ※但し、加点は3ヶ年で1回とする	B
(4) 部活動をしている者(但し、3年間通じて活動している者)、または、上記2. 自己表現または個性表現の実績(ア)～(エ)の分野において受験生が申請した分野以外でランクB以上の実績がある者。	B

4. 出欠の記録(調査書に「皆出席」の表記がされている事)の基準目安

3カ年皆出席：ランクA 2カ年皆出席：ランクB 1カ年皆出席：ランクC

5. 特別枠

基準を以下のように設定し、基準1、2のいずれかを満たした者を審議し特別枠とする。

基準1. 評定平均4.5以上で、部活動を中学校3ヶ年間続けた者。

基準2. 評定平均3.5以上で、全国大会へ出場した者。

II. 国際人文科

次の5項目を点数化して、その総得点を合否判定の資料とする。

1. 内申点：中学1年、中学2年、中学3年の9科目の5段階評定の合計

2. 自己表現または個性表現の実績の基準目安

(ア)～(エ)の項目について、以下の基準で点数化する。受験生が申請した推薦項目についてのみ、最も高い実績を1つだけ採用する。

【自己表現の分野】

分野 ランク	(ア)文化活動に関する実績 (英語関係コンテストに関する実績)	(イ)スポーツ活動に関する実績 (中体連、又は競技団体が主催する大会に限る)	(ウ)社会活動、 ボランティア活動における表彰	(エ)資格取得等の活動
A				英検2級以上、国連英検C級以上
B	全国・九州大会出場、最優秀賞、優秀賞、金賞 英語関係コンテスト(全国・九州大会出場)		全国・九州レベルで活動が認められ 表彰を受けた、または実績が証明で きる	英検準2級、国連英検D級 漢検・数検2級以上
C	県大会3位以上、優良賞、銀賞 英語関係コンテスト(県大会出場)		県レベルで活動が認められ表彰を受 けた、または実績が証明できる	漢検・数検準2級、毛筆・硬筆検定2級以上
D				英検3級
E	地区大会優勝、佳作、入選、銅賞 英語関係コンテスト(市町村大会出場)		地区での活動が認められ表彰を受 けた、または実績が証明できる	漢検・数検3級、毛筆・硬筆検定3級、 (全珠連)珠算3級以上、書道有段者
F	上記以外の実績の場合は審議し、ランクに準じ評価する。 ※文化活動におけるの表彰は、県レベル以上のコンクールとする		AからD以外の実績	上記以外の実績の場合は審議し、ランクに準じ 評価する。

【個性表現の分野】

分 野	(ア)音楽、美術、書道などの芸術分野	(イ)文芸、研究などの分野	(ウ)舞踊、創作ダンス、手話等の身体的活動を伴う分野	(エ)留学などの体験分野
基準・得点	1分野においては、面接内容を含めて審議し、ランクA、B、C、Dとして評価する。 基本はランクCとし面接内容を含めて審議する。			

3. 特別活動(調査書表記されている事)の基準目安

項 目	ランク
(1)生徒会会長	※ 但し、加点は3カ年で1回とする。 A
(2)生徒会執行部、正副級長、部活動における部長、部活動の3カ年継続	※ 但し、加点は3カ年で1回とする。 B

4. 出欠の記録(調査書に「皆出席」の表記がされている事)の基準目安

3カ年皆出席：ランクA 2カ年皆出席：ランクB 1カ年皆出席：ランクC

5. 英語による面接

6. 特別枠 なし

Ⅲ. 体育科

1. 体育科の特性を考慮し、次の観点から選考する。

- (1) 心身共に健康で、専門の実技科目等の履修が可能であること。
- (2) 実技検査を実施する。
 - ①共通種目：新体力テストの4種目（反復横とび、上体起こし、長座体前屈、立ち幅とび）
 - ②各種目の検査：実技検査種目に関する調査書で申請した種目
- (3) 中学校で上記専攻種目のスポーツ活動の実績があり、且つ高校入学後上記専攻種目での部活動を3年間継続する強い意志、意欲があること。
- (4) 面接の結果が良好であること。（点数化はしない）
- (5) 内申（評定）の平均が原則として、3.0以上であること。

2. 内申点：中学1年、中学2年、中学3年の9科目の5段階評定の合計135点を180点に換算

3. 自己表現または個性表現の実績目安

	ランク	内容
中学校における実績（専攻種目に関係するもの） ※実績は得点ランクの高い1項目の得点を採用する。	A	(ア)．全国大会出場
	B	(イ)．九州大会出場
	C	(ウ)．県の強化選手に指定されたもの
	D	(エ)．県大会3位入賞
	E	(オ)．県大会出場（3年次）

4. 実技テスト

項目	内容
① 新体力テスト	反復横とび、上体起こし、長座体前屈、立ち幅とび
②各種目の実技テスト	基本技能、応用技能、ゲーム等

5. 特別枠

基準を以下のように設定し、基準1，2，3の全てを満たした者を審議し、特別枠とする。

基準1. 本校専攻種目である、陸上競技（男・女）・水泳（男・女）・柔道（男・女）ハンドボール（男・女）・サッカー（男子）において、高い競技能力・運動能力を有している者。

基準2. 評定平均が原則3.0以上の者。

基準3. 次のいずれかを満たした者

- ①競技成績が九州・全国大会にて、優秀な成績を残している者。（団体競技においてはレギュラーのみとする）
- ②全日本強化指定選手に選抜されている者。